

令和元年度 東京都立大泉桜高等学校卒業証書授与式 校長式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、三年前の春、不安と期待を胸に本校の門をくぐりました。本校、東京都立大泉桜高等学校は、平成十七年四月、東京都立大泉北高等学校と東京都立大泉学園高等学校が発展的に統合され、大泉北高等学校の敷地に開校しました。母体校となった両校の特色を継承し、「美術」「福祉」「情報」の三つの教科を柱としたユニークな教育課程を編成する、練馬区で初めての全日制・普通科・単位制高校としての誕生でした。

本校の教育目標には、「社会の変化に対応し、生涯に亘って学び続けることができる主体的な生徒を育成する。」とあります。すなわち『主体的な学び』ということです。これに基づき「豊かな感性や思いやりの心を身に付け、生命を尊重し、責任感と規範意識を持つ『社会に貢献』できる人物を育成する。」という強い思いが込められています。そして、一人ひとりが「自らの在り方、生き方を考え、将来への意欲や目的意識を持つ『自立』した社会人となる。」

すなわち、3つのキーワード、『主体的な学び』、『社会貢献』、『自立』が本校の目指すところであったわけです。

君たちが受けた様々な「授業」をはじめ「学校行事」、「部活動」、また本校独自の「キャリアガイダンス」これらはすべてこの目標のもとに実施されてきました。そして今、君たちは『自立』の時を迎えるとともに、本校一三回目の卒業生、一三期生として立派に巣立とうとしています。

さて、16世紀、イギリスの哲学者フランシス・ベーコンは

「読むこと」は、人を豊かにし

「話し合うこと」は、人を機敏にし

「書くこと」は、人を確かにする。

と述べています。

今日、「学び」は英語4技能でいわれるように「読む・書く・聞く・話す」と分類していますが、ベーコンは、「聞く・話す」を「話し合う」とまとめていま

す。時代や洋の東西を問わず「学び」が大事であることに変わりはありません。

「読むこと」は、人を豊かにし

「話し合うこと」は、人を機敏にし

「書くこと」は、人を確かにする。

君たちの未来が「学び」（すなわち、読むこと、話し合うこと、書くこと）の継続によって、実りのある人生となることを心から祈っています。

卒業生諸君。およそ、卒業式の意義は、先輩たちが、築いてくれた輝かしい伝統を、しっかりと受け継ぎ、それをさらに発展させ、社会に貢献できるよう、自らに誓いを立てること。そしてこれまで君たちを支えてくれたすべての皆様に感謝することにあります。

創立より本校の卒業生は、すでに二千名を超え、諸先輩は、様々な分野で活躍されています。君たちは、これに続き、未来を創造していく社会の一員となります。一人ひとりの個性を大切にする本校で学んだことを誇りに、これからの人生を歩んでください。感謝の気持ちを忘れずに。

以上、式辞といたします。

令和二年三月七日

東京都立大泉桜高等学校長

亀崎 隆彦